

滴りの落ち場所にさへ運不運 高橋素子

一滴の滴りに寄せた人生の浮き沈み。賽の目がとうでようと面白がることで克服できると滑稽に託した作者の意図が見えてくる。

夕立の飛び跳ねてゐるアスファルト 藤原セツ子

軍配はアスファルトに挙げる、どんなに暑かったか夕立とアスファルトのよろこびが一体化した滑稽句。

大盛りを復唱されて冷やしそば 原田 曄

念には念を入れよ。少しばかりの贅をたのしむひと時に滑稽が生まれる。

腹の色いかがと叩かれてゐる西瓜 高橋素子

西瓜は叩かれていい音で反応、人間はそうはゆかない真っ黒かも。